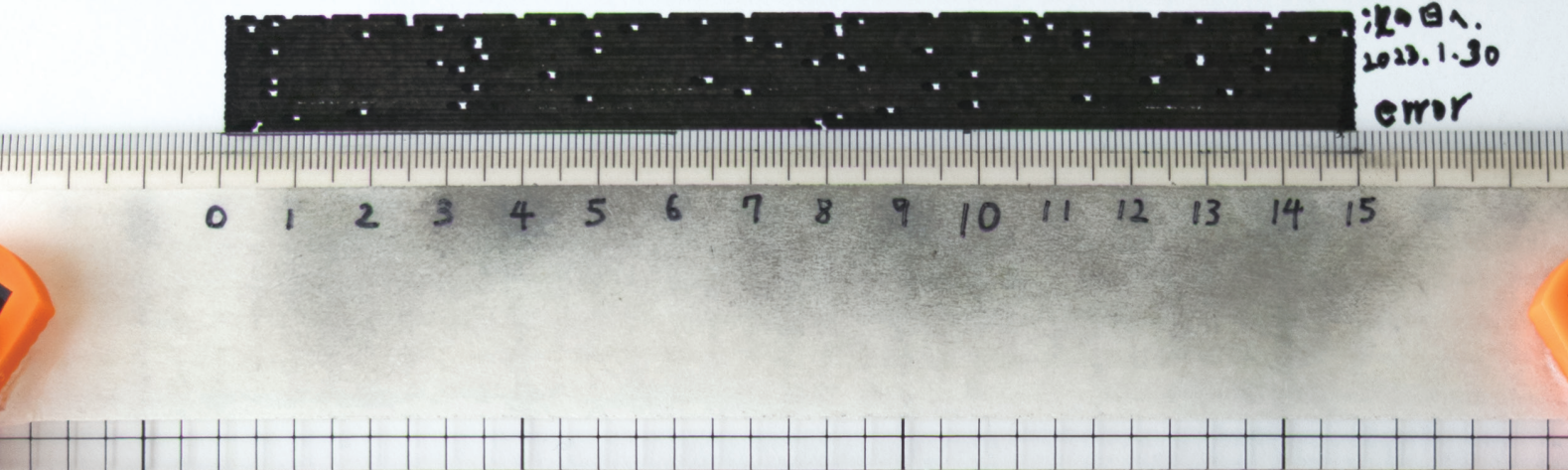


KEI
TAJIMA
EXHIBITION

1-135 縁側からのルポルターージュ
「白い紙に黒い四角」



1-135 縁側からのルポルターージュ
「白い紙に黒い四角」

2023 4.8 sat. — 4.30 sun.
12:00-19:00 | 月曜休廊

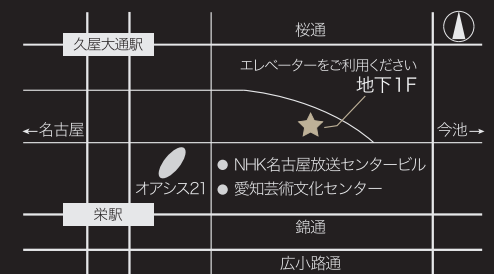
愛知県立芸術大学
サテライトギャラリー
SA・KURA

〒461-0005
愛知県名古屋市東区
東桜1-9-19
成田栄ビル地下1階
tel. 052-212-9316
aua-sakura.com



新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更する場合がございます。最新情報は大学ウェブページ、サテライトギャラリー SA・KURA ウェブページをご覧ください。

問い合わせ | 芸術情報・広報課 0561-76-2873 (平日 9:00 - 17:30)



地下鉄東山線 栄駅徒歩6分、地下鉄桜通線・名城線 久屋大通駅徒歩7分



2022年12月23日午前9時3分、晴れ。さて、洗濯物も干し終わったし、石油ストーブに火をつけて、昨日準備した絵を描こうか。白い紙の水張りパネルに定規を固定して、黒いインクの製図ペンで始めに1mmの線を引く。続けて、1mmのスペースを開けたところから2mmの線を引く、1mmのスペース・3mmの線、1mmのスペース・4mmの線、1mmのスペース……………
……………298mmの線を引く。1mmずつ長さを増す黒い線と、1mmのスペースの集積で描かれた、幅150mm×高さ240mmの、白い点々のある黒い四角。この黒い描画面積で、経過した時を証明しようとするが、結局のところ白い紙に黒い四角を描いただけ。さてと、もう夕飯の準備をする時間。2022年12月23日午後6時17分、夜。

田島 圭



1-135 縁側からのルポルタージュ 「白い紙に黒い四角」

このたび、サテライトギャラリーSA・KURAでは、田島圭展 1-135縁側からのルポルタージュ「白い紙に黒い四角」を開催します。これまで田島は、絵画を「描く」ことにこだわり、独自の理論で新しい表現を模索してきました。本展覧会では、自宅の縁側で描き続けている黒い四角の絵画群を中心に展開し、併せて多様な表現方法で制作された過去作品も紹介します。

黒い四角の絵画は、最後に描いた線の長さ、完成した年月がタイトルとなる作品です。この絵は、線幅1mmの製図ペンを使い、紙の左上に1mmの線(点)を引き、その線から1mmの間隔を空け、2mmの線を引く。1mmずつ引く線を長くしていき、連続する線の集積により、白い紙の上に黒い四角が現れます。

1mmずつ長さを増していく線を描く行為は、一見単調な作業ですが、作品を構成する要素である紙とペン、紙のサイズから導き出される描画面積(線の長さ)により、1枚の絵と対峙した「時」を証明する方法と言えます。線を引くという単純な行為の中に、「描く」ことを見出し、そこから何を描こうとしているのか、田島の新しい絵画のかたちをご覧くださいと思います。



2



3

- 1: 《298mm 2022年12月23日》2022 / 紙に製図ペンで描画
- 2: 《ロールペインティング》2016 / 油絵具, ロールキャンバス
- 3: 《81 times》2014 / アクリル絵具, キャンバス
- 4: 《untitled》2015 / アクリル絵具, マスキングテープ
- 5: 《「untitled」(2015) 1:1にノ3のぬり絵》2021 / 油絵具, 水張りテープ, 画用紙にレーザープリント, 木製パネル

 愛知県立芸術大学



4



5